

第3回彦根市公共交通活性化協議会 議事録

開催日 平成22年1月18日(月)午後6時～

開催場所 大学サテライトプラザ彦根

出席者 別紙のとおり

1 開 会

過半数出席により 規約第8条3項により定数を満たしている

2 議 事

松田会長

(1) 地域公共交通活性化再生総合事業に係る自己評価について

松田会長

市は予算編成をしており、財源がない中での苦しい予算査定となっております。これまで相当大きな財政支援を公共交通でやってきました。乗っていただけるようなシステムや利便性を図るためにいろんなところに出向いて地域の意見を聞いたりして実施した結果を反省したりしながらやってきています。本日は地域公共交通活性化再生総合事業に係る自己評価の審議です。自己評価についてお諮りしたいと考えております。21年度計画事業について当協議会で自己評価をして近畿運輸局へ提出するものです。

後半では彦根市域から広げまして1市4町でも協議会を立ち上げており、定住自立圏の中で公共交通についてご議論いただいているところです。全国的に公共交通をどうするかはそれぞれの自治体や地方で取り組んでいるところです。彦根の協議会を設置して議論していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局から説明をお願いします。

事務局

これまでの経過、利用状況について参考資料1～3により説明

- ・参考資料1 事業の経過
- ・参考資料2 利用状況

河瀬南彦根線改善による河瀬線12月分のバス利用状況は湖国バスから口頭により報告を受けている。平成20年度と21年度を比較すると、11月は23,876円の増、12月は92,000円の増になっている。平成21年度12月の運送収入は244,000円ほどあったということで、今年の10月と比較すると10万円以上の収入増になった。

予約型乗合タクシーの12月分は確定していないが、鳥居本55人、稲枝48人、河瀬87人と河瀬が一番多くなっている。毎日のように市立病院と平和堂日夏店を往復されている方、ニュータウンではない日夏から市立病院へ行かれる方、日夏ニュータウンから市立病院へ行かれる方、河瀬の東側から豊郷病院や市立病院、友仁山崎病院や河瀬駅・南彦根駅へ利用されている状況である。

- ・参考資料3 利用者アンケート調査

自己評価について資料2により説明

- ・資料2 自己評価表

松田会長

これまでの結果をまとめていただいたものですが、行政側で路線バスをどうするか論議が中心であったのが、いろんな方の協力を得てミーティングやワークショップ、アンケートをしたりしながら、かなり市民に関心をもってやっていただいたと思います。全体をとおして個々の検証も大きなポイントになると思いますので、それぞれのお立場からご意見がございましたらお願いします。

野村委員

自己評価については、参考資料4に基づいてお書きいただいておりますが、ざっとは考え方に基いて書いていると思います。今後の展開についてお話をさせていただきますと、次年度の予算状況は非常に厳しい状況で、今日聞いてきたところでは、現在取り組みされている状況について、本当にいいものかどうかを含めて次年度の交付決定をするときに、一律の査定ではなく、この事業がいいのかどうか現状を見ながら査定をするということ、協議会で伝えてほしいということで、メールが来ていました。今までのように一律の査定にはならないでしょうが、逆に言えば、良い取組みであればプラスになるのかと思いますが、現在の状況は不透明なところがありますが、今日本局からメールが来ましたのでそのお話をさせていただきました。

松田会長

国の仕分けや国交省の考えの中でも地方自治体でしっかり考えなさいというのは承知しておりますが、これだけ努力しておりますので今後事業が推進できるようにお願いしていきたいと考えております。

樋口委員

支局の話によりますと、今までと同じような内容の事業では査定が厳しいと思われます。評価表で翌年度事業が実施される場合には、一つは、協会としても利用者促進策として、モビリティマネジメントの導入によりなぜ公共交通機関が必要であるのかももう少し市民に訴えていく事業展開がいてと考えておりますが、京丹後市の例では、地元のサポーターのような、自分達のバスは自分達で守るという応援団のようなものを含めて、交通弱者でなく健常者にもっと利用してもらえるサポーター作りをしてもらいたい、また、輸送実績で河瀬南彦根線で定期が倍増していますが、ぜひ通勤客がもっとバスを利用してもらえる仕組みづくりをお願いしたいと考えています。

近藤委員

サポーターのことですが、バス応援団を作ろうとしたこともありました、その後の盛り上がりがうまくいきませんでした。彦根市全域を対象としたほうがよいのか、自治会を単位として自分達の地域を単位とするのがよいのか、というのはありますが、何らかの形で応援団の形ができたなら私も思います。

評価の部分で気になるのが、利用者に聞くのはもちろんですが、利用されない人の調査もしておかないと、利用している人には満足度は否定的に見ることはありませんので評価としてはプラスになりがちなので、乗っていない人がなぜ乗らないのかをおさえないと、利用者増のパイを増やすことが見えてこない、乗っている人のサービス基準をあげていくのはいいのですが、乗らない人はなぜ乗らないのかをおさえないと、と思うので、利用者中心で把握するのが中心になっていますが、自治会でヒアリングするのか、1月のアンケートの中に入る入らないは別にして、どうしたら乗るのか、地図の配布は全体にするので乗らない人へもやりますが、バスと愛のリタクシーは現在乗っている人の評価なので、少し気になりました。

松田会長

事務局のほうで考えがありますか。

事務局

連携計画 3 ヶ年計画の中で、21 年度はダイヤ改正や空白地域の対応をさせていただきましたが、22 年度ではソフト事業になっており、利用者増を図る施策でいろんな事業の展開をすることになっており 予算要求をさせていただいているところです。普段利用されない人をいかに公共交通に結び付けていくかを主の事業として取り組みたいと考えております。

松田会長

利用されない人へのアンケートも視野に入れるということですね。

事務局

そうです。湖東圏域の中で 11,000 人対象にアンケート調査をさせていただいており、1 月末には最終的な集計ができるのではないかと思います。

松田会長

先行してやっている彦根市が努力してやっているのになぜ乗らないというのは、何も走っていないところではないので、案があるのであれば出していきたいです。稲枝と鳥居本は行政で公共交通空白地域としてセッティングしましたが、河瀬のほうは取り組み方が違うのでその成果を期待しているのですが、データが 11 月と 12 月しか出ていないということです。今後どのように出てくるかによって、路線バス・乗合タクシーを全域でどうしていくかということへの成果として注目していきたいと思います。

事務局

若干の増があるということは分かっていますが、どのように推移していくかはよく分からない部分があります。河瀬においては亀山地域の空白地域、日夏や河瀬東側は従来の路線バスの中にデマンドを入れているところもありますので、利用者がどのように動くか、利用者がデマンドと路線バスをどのように選択して利用していくかは今回興味を持っているところですので、利用状況等については時間をいただきたいと考えています。

松田会長

近江タクシーさん、河瀬学区の状況は何かつかんでおられますか。

久田委員

まだここでお話させていただける資料はあいにく持ち合わせておりません。

松田会長

数としては他の地域より多いですか。

事務局

12 月はまだ確定していませんが、鳥居本が 55 人、稲枝が 48 人、河瀬が 87 人となっています。河瀬の中で多いのが亀山線の 42 人で、平和堂日夏店と市立病院をほぼ毎日往復されている方が見られて多くなっています。河瀬東線は 30 人、日夏線は 15 人です。日夏線では日夏から市立病院へ行かれる利用が見られます。

近藤委員

マップですが、県立大学の新生全員に配布するとしたら可能でしょうか。こういうものを大学は全く持っていないので、南彦根と県立大学の間、県立大学と彦根駅の間しかバスがないと思っている、でも活動では多賀に行ったり高宮に行ったりしています。1 回生はまだ車に乗れないので、どうやっていったらよいか分からない。実は愛のリタクシーも使ったら行けるといっても、4 月の新生のオリエンテーションで配ればと思います。

事務局

マップは即今 2,500 部印刷の準備をしていますが、市民の意見をお聞きし、その後全戸配付は 3 月に

予定していますが、県立大学の学生さんに配布させていただく部数は確保させていただけると考えておりますのでぜひともよろしくお願ひしたいと思ひます。

近藤委員

住んでいる学生には届くけれども、通っている学生にも届くのですか。

事務局

プラスアルファで学校にお届けすることはできると思ひます。

近藤委員

協議会は広告を取れますか。

事務局

広告も入れられますが、大きさとスペースの問題がありまして今回は広告は入れておりませんが、次回からは広告でのご支援をいただきたいと考えております。

宮野委員

河瀬の老人クラブでヒアリングをしていただきましたが、いろいろなミーティングで役員に聞き合わせをするが、なかなか本音が言えていない部分もあるようです。推移を見ながら意見を聞いてみたいと思ひます。もうすこし勉強したいと思ひます。

老人クラブのある中老人福祉センターではかなり利用者が多いですし、回数券をご利用される方も多いので、アンケートを取る必要があるのではないかとと思ひます。

事務局

中老人福祉センターではマップのアンケートを予定していますので、ぜひともご協力をお願いしたいと思ひます。

松田会長

アンケート調査結果という部分が入っていますが、この自己評価についてはこれで提出していただいでよろしいか。

全員ご承認いただいたものとして、この事後評価を近畿運輸局へ提出し、また公表することといたします。近畿運輸局では第三者評価委員会が開催され、委員会での二次評価を受けることになっています。

松田会長

関係する定住自立圏構想の中で、湖東圏域公共交通活性化協議会の移行について事務局から説明させていただきます。

事務局

定住自立圏構想に基づきまして、湖東圏域では公共交通ネットワークを構築するために昨年11月12日に皆様のご承認を得て湖東圏域公共交通活性化準備会を立ち上げさせていただき、現在圏域全体での連携計画を作成中です。当初、圏域の協議会は彦根市の活性化協議会を解散と同時に正式に法定協議会へ移行する予定でしたが、若干スタンスが変わりましたのでご説明いたします。連携計画については彦根市は事業に取り組んでいますので、残り2年間を圏域の計画に広げるといふことで考えており、いったん彦根市の協議会を一旦解散して圏域の協議会へ移行する予定でしたが、国の事業の整合を図るといふ点で、計画は彦根市を発展させて、協議会は解散させるのでは整合がとれないといふご指摘がありましたので、協議会も彦根市の協議会を発展拡大させるといふスタンスが望ましいのではないかと運輸支局から指導いただいたところす。最終的に向かうところは変わりませんが、考え方に変更がありますので、ご理解をお願いします。移行時期は2月末から3月初めを考えています。国への事業申請の兼ね

合いを見ながら作業を精査し、改めてご案内をしたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

松田会長

国との協議で彦根の協議会を核に拡大したいということになったのですね。

事務局

彦根市の協議会の発展という形になるので、他の関係町ではどのような話が出るかわかりませんが、行政間で相談し、向かう方向としては変わらないということでご理解をいただいています。

松田会長

4町では調査で動きかけているのですか。

事務局

昨年11月12日にご承認いただいた予算案をもとに、システム科学さんと1市4町の圏域の計画を策定中です。彦根市については2年目3年目の計画を昨年立ててありますが、他町の計画は初めてですので、どのような形でネットワーク化を図るかを検討中です。

松田会長

広域についてはその協議会で説明をさせていただきます。前回の協議会では出だしていざごしましたが、もう一度一番初めの案に戻っておりますのでよろしく申し上げます。4町とも公共交通をどうするかは大きな課題で、地域性もあり、いろんな形で課題を抱えており、1市4町で生活圏域での交通をどうするかということについては共通課題として定住自立圏でも先行して進んで来ております。

一方、愛荘町はスマートインターができた関係で、別部会ではバイコロジー、自転車を利用する施策の検討会があって、県立大学のチームによって自転車がどのように動いているかという観点で、利用しただけのようなものを作りたい、新たに道路を作るわけにはいきませんが、つながっていったサービス機能があって、市長は電動付き自転車でないと言いますが、いろんな夢が愛荘町を中心に動いています。それとの連携が出てくると思います。1市4町が合併はしませんが、そういうつながりで地域の活性化を図っていくという中に、公共交通、バイコロジー、インター等が関わっています。また、近江鉄道をどう利用するか、近江鉄道による1市4町の連携も大きな課題であり、自転車を近江鉄道さんには乗せられますので、観光、産業の分野で交流人口を増やすのに近江鉄道とどう連携するか、公共交通ネットワークの中で取り上げられていくと期待しています。

野坂委員代理

直接関係はありませんが、近江鉄道を活用した公共交通の促進ということで広域の集まりの中では大きな課題であるので、バスとあわせて検討を進めていければと思います。

田井中委員代理

バス事業のことしかわかりませんが、少子高齢化で滋賀県全体でもバス利用者は全体的に減っている状況で、彦根市だけでなく県内全体で不況もあいまって、ご利用されているお客様は少なく、そういう中では学校、事業所、商店さんと協力・連携して乗っていただけるお客様を掘りおこしていかないとお客様の増加は難しいと思います。学校や事業者さん、商店街さんを巻き込んで、そのお客様をいかに乗っていただくかのPRが必要になってくると思いますので、そのところをやっていただけるともっと利用していただけると思います。

大西委員

稲枝循環線と蚊野線を運行させていただいていますが、今年度においては輸送人員が減っているという状況でございます。理由としては保育園の送迎がなくなったことが一番大きいところですが、しかしながら、稲枝駅をご覧頂くと、稲枝駅には8時前後になるとたくさんの自家用車でバスが入れない状況で

す。高校生の父兄による自宅から駅までの送迎ではないか、そのあたりの開拓を、利用していない人のアンケートをもとに、少しでも利用人員が増えるように知恵をお借りしたいと考えています。

角田委員

河瀬南彦根線を延伸し、久しぶりにこの路線が 20 万円を超えました。対前年も 9 万円増え、増えたことはお客様が増えたということで喜んでいる。会長から近江鉄道と自転車の話がありましたが、長浜市が 3 月末ごろから自転車を積み込める、後ろの席に 3 台積み込めるバスを導入されます。そこは坂があり高校生が多いので、利用促進策としてされますが、今後商店街等と協力していく中で、自転車を搭載できるバス等を利用されてはどうかと思います。

松田会長

これからアンケート調査を行い、効率よく利用者が増えるように、相当な財政支援をしていますが、利用があればよいので、利用者増加を図ることに最大の努力をしていかないといけないと思っています。広域の湖東圏域中でも貴重なご意見をいただきたいと思います。これでできないと終わりだと思っています。それくらい国の支援や財政支援がありながらやってきたということですので、議会で質問があったら、先生方に乗っているか質問してみたいと思います。それくらい意識を持たないと、議会でいろいろ意見を言ってもそれが実行されていないと何をしているのかということになりますので、努力していきたいと思います。

今後ともよろしくお願いします。

~以上~

彦根市公共交通活性化協議会委員名簿

	団体等	職名	氏名	出欠
1	彦根市	彦根市副市長	松田 一義	出席
2	滋賀県	土木交通部管理監	野坂 尚宏	出席 (代理)
3	近畿運輸局滋賀運輸支局	首席運輸企画専門官	野村 義明	出席
4	一般旅客自動車運送事業者およびその組織する団体	湖国バス(株) 代表取締役	角田 仁	出席
		彦根観光バス(株) 代表取締役	大西 和弥	出席
		近江タクシー(株) 本社営業所 総支配人	久田 良夫	出席
		(社)滋賀県バス協会 専務理事	樋口 俊助	出席
		滋賀県タクシー協会 専務理事	加茂 学	欠席
5	一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体	私鉄滋賀県協議会 副議長	田井中 修	出席 (代理)
6	滋賀県彦根警察署	交通課長	村田 喜昭	出席
7	学識経験者	滋賀大学教授	山崎 一眞	欠席
		滋賀県立大学准教授	近藤 隆二郎	出席
		聖泉大学教授	野本 茂	欠席
8	住民または利用者	彦根市身体障害者更生会 副会長	中村 裕次	出席
		彦根市老人クラブ連合会 会長	宮野 武男	出席
9	道路管理者	湖東土木事務所 次長	三浦 良勝	出席
		彦根市都市建設部長	寺嶋 勲	出席